明治時代の台風「6月流れ」について

茶　屋　道　久　吉

カツオの港枕崎は本邦における台風襲来の最前線に位する所謂「台風・銀座の四丁目」であるが，枕崎のカツオ漁船が現代のように機械化されていなかった帆船時代（明治年間）に台風のためにカツオ漁船が遭難した悲惨事の中の一つに「6月流れ」（旧暦6月の台風による遭難の意）というのがあったので，筆者はその時の台風経路を調べ，かつ又その時の状況を唄い傳えている枕崎の民謡によって，昔のカツオ漁業現場の情景や漁夫達が台風により遭難して死んで行った哀れにも悲しい事実を紹介して，追憶の情を新たにしたいと思う．沿海測候所の気象人として，台風とカツオの事は夢にも忘れる事は出来ないからである．

明治28年7月24日（旧暦6月3日）台風に遭難した枕崎のカツオ漁船23隻溺死者411人という大惨事があって，当時明治天皇は，日根野侍従を御差遣，惨状を視察せしめ，尚御下賜金を給われた．その時に乗組んでいた漁夫達がいよいよ助らないというので最後の想い出に悲しく唄って黒島沖の藻屑と消え果てた有様を当時の生存者達が民謡として哀れにも悲しき事実を唄い傳えている．

枕崎の「6月流れ」の民謡

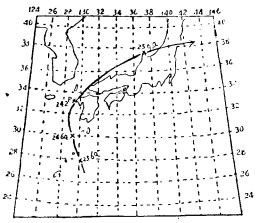
○一番[1]鶏に起されて，二番鶏にお茶を飲む，三番鶏に浜に揃うて，四番鶏[2]には立神[3]に夜のほのほの明けに傳馬引寄せ網を張る，一あば[4]取りては樽に入れ，二あば取りては樽に入れ，三あば四あばで取仕舞て，良か雑魚取ったと喜んで，舳（おもて）のニオ[5]は矢帆を捲き，艫の年寄は本帆を捲く，其日は黒島で飯をはかり[6]，夜のほの明けに新曾根[7]に，上手を見ても鳥巻[8]が，下手を見ても鳥巻が，下手の鳥巻やりこんで，かわい餌投餌撒（かぶ）す．後よりパンパン[9]蹴って来る．三尋五寸[10]の竿取って，小さい[11]子供は餌配る．良か魚釣ったと喜んで，風は何かと尋ぬれば，風は北東（こちら）風そよそよと，東に走れば西にやる．風はだんだん吹いて来る．風についたる波もある．波についたる風もある．助けてたもれ風の神，助けてたもれよ波の神，もはや流れにや仕方ない．胴木きびれ××は中から折れてくる．三十二人の船方は，鉢巻手に取り思案顔，艫の年寄念仏を，遠らぬ此の身は圧（いと）はねど，これまで育てた親も居る．それについたる妻や子はどうして月日を送るやら．

○一番鶏，二番鶏，三番鶏に起されて，四番鶏には浜に揃うて，五番鶏には立神に二あば三あばと雑魚とりて，良か雑魚を取りて，もういい頃ぢやないか．

西が曇れば雨とやら，東が曇れば風とやら，そこで船頭が申すには，うちには，子も居る妻も居る．それより大事な親が居る．そこで手を四五人連ねて海にへる[12]．

註（1）1時頃か（2）4時頃か（3）枕崎沖の雑魚（カツオの餌にするもの）取り漁場にして港よりSSW 3.4 kmの海中に42米の立神岩あり（4）一網（5）青年（6）食事して（7）漁場（8）カツオの上空に群れ飛ぶカツオ鳥（9）カツオがポンポン踊る（10）カツオを釣る竿（11）カツオを釣る生餌を配る少年（12）海に入る（13）当時の漁船は15屯位と推定す

台風経路図
（明治28年7月23～25日）



（熊本県災異誌による）

この民謡を読んで見ると，台風通過前に黒島付近の漁場において，カツオの大漁があった事がよく判る．カツオは大体天気の悪化前や悪化しつつある時又は悪化している時など大漁がある事はよく知られているのであるが，魚類と低気圧，カツオと台風との関係は非常に密接である事はこの黒島付近における「6月流れ」の事実によっても，うかがわれるのである．

この台風の通過に伴う経路付近各地の気象状況や被害は表のとおりである．

終りに臨み気象資料について御協力下された各気象官署の方々に深甚なる謝意を表する．（枕崎測候所）

明治28年7月24日台風状況表

地名	最低気圧	最大風速	降水量	被害状況
	mmHg	m/s		
鹿児島	741.0	12.6	73.3	船舶流失破損 127 隻
枕崎				黒島にて漁船 23 隻難破死者 411 人
知覧			81.4	
隅之城			85.0	
大口			172.0	
熊本	732.2	SW 16.9	44.2	死者 61 人，傷者 155，行方不明 118 人
長崎	713.2	NE 16.9	83.0	男女群島男島眞浦付近で流失 4 又 5 沈没行方不明 30 人
福岡	721.3	S 25.6	75.0	樹木家屋到壊し災害大なり
下関	730.2	E 30.7	45.3	船舶流失 18 隻，建物流損 134 戸

参考文献

鹿児島県立枕崎水産学校：枕崎の史と伝説（昭 21. 12. 30）
鹿児島地方気象台：鹿児島県災異誌（昭 27 年 4 月）
福岡管区気象台：福岡県災異誌（昭 21. 12. 30）
熊本測候所：熊本県災異誌（昭 27. 10. 25）